地域共生推進協議会【第１回】

令和５年５月12日（金）
17時半～18時半
地域交流センター2階会議室

議事録

地域共生推進協議会（第１回）は以下の次第に沿って、議事が進行された。

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 町長あいさつ
4. 委員紹介、事務局紹介
5. 会長、副会長選任
6. 議事
（1）第１期地域福祉計画で目指した将来像と重点施策と宿題
（2）第１期保健福祉総合計画検討における重点論点に関する委員アンケート
（3）質疑

7. その他
次回以降の会議開催日程について

分科会	令和５年６月～7月頃
全体会議（第２回目）	令和５年８月後半　骨子案の提出
分科会	令和５年９月頃

委員出席者

佐々町民生委員児童委員協議会	会長	吉永　浩樹
町内会長連絡協議会	会長	ミズタ　ヒデタカ 水田　秀豪
北松浦医師会	かわむら内科 院長	川村　純生
北松歯科医師会	かわむら歯科 医院理事長	迎　文彦
(社)佐々川福祉会		古川　薫
相談支援事業所さわかぜ支援センター		竹下　智美
弁護士会　飛鸞ひまわり基金法律事務所	弁護士	小林　洋介
長崎県社会福祉士会　権利擁護センターぱあとなあ長崎	社会福祉士	山野　清治
佐々町商工会	会長	森山　政幸
佐々町社会福祉協議会	事務局長	大瀬　昇
スクールカウンセラー		近藤　由香里
佐々町スポーツ推進員		マツオ　ヤスヒロ 松尾　恭宏
佐々町教育委員会教育委員		ナカムラ　タカヒロ 中村　尚広
株式会社　愛佳	代表取締役	シモガマ　トヨヒロ 下釜　豊広
介護予防ボランティア　元気カフェぷらっと	代表	福田　修三
ぷくぷくクラブ	代表	岩本　ます子
フリースペースなずな	代表	柳原　佳子
佐々町食生活改善推進連絡協議会	会長	小林　貞代
カブトガニを守る会	会長	ヨコオ　ヒロノリ 横尾　博　宣
佐々町地域福祉計画策定委員会委員長		吉居　秀樹

挨拶・委嘱状の交付

佐々町	副町長	中村　義治

事務局

事業者

司会　住民福祉課　松本典子

1.開会

2.委嘱状交付

町長の代理として中村副町長より委嘱状の交付が行われた。
中村副町長より吉永浩委員に委員の代表として委嘱状を交付。
令和 5 年 5 月 10 日から令和 8 年 5 月 11 日の期間。

吉永委員
よろしくお願いします。

司会（松本）
他委員には委嘱状をお手元にお配りしております

3.町長挨拶

△中村副町長より町長の挨拶を代読
△本町では今年度において、令和 6 年度から 6 ヶ年の佐々町第 1 期地域総合福祉総合計画を策定することとしております。
△令和元年度に地域福祉計画策定委員の皆様と策定いたしました保健福祉総合計画の前身である地域福祉計画は、多世代包括支援センターの創設や、移動支援、ボランティアポイントなどの取り組みを具体化し、実行に移す契機となりました。△今回この地域福祉計画を住民の皆様の暮らしの視点から見直し、健康づくりや介護予防を含む幅広い分野において、地域における支え合いを大事にするまち作りを目的とした保健福祉総合計画として、さらに一歩進めていきたいと考えております。
△佐々町におきましては、皆様のご存知の通り、高齢者福祉の分野において、地域の皆様の活動が、厚生労働大臣表彰を受け、全国的にも注目をしていただいています通り、地域の力、繋がりが十分に残っていると感じています。△それをぜひ、高齢者福祉のみならず、障害者福祉、児童福祉の分野においても発揮していただき、各世代が繋がり、循環するまちとなるような環境を整えておくことが極めて重要であると思っております。△これからの未来を担う子供たちも含めて、多くの町民の皆様に「暮らし一番、住むなら佐々」と思っていただけるよう、佐々町の地域福祉の礎となる計画書になりますよう、皆様のお力をお借りしたいと考えております。令和 5 年 5 月 10 日佐田町長古庄剛代読でございました。

4.委員紹介

〇委員紹介
〇事務局紹介

5.会長、副会長選任

会長に中村様、副会長に松尾様、古川様を事務局より提案。
提案にそって拍手にして承認。委員長、副委員長が選任される。

中村会長

△今会長にご指名をいただきましてありがとうございました。今日は夕方 7 時にもかかわらず、ほぼ完璧に集まっていただき、ありがとうございます。また時間調整をしていただいた事務局側にまずは深く感謝をします。
△今日はドクターもおられますし、弁護士の先生もおられます。普段なかなか会えない方に集まっていただいています。
△目的は何なのかっていうことになれば、今は 2 つ大きな目標ができています。3 つ目を、今回協議をしていきます。
△この佐々町が良い方向に行くのが最終的に目標になっていく。「暮らし一番住むなら佐々」というキャッチフレーズがいつもも言われるから頭の中に入っている。そこに向かっていくと思います。
△私は教育委員として今回この場にいますけれど、教育の世界もいろんなことが変わっていて、数年前にやれていた教育が今では全然できないとかいろんなことが変わっていっています。
△皆さんから、いろんな意見をいただきたい。皆さんで作り上げるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします以上です。

松尾副会長

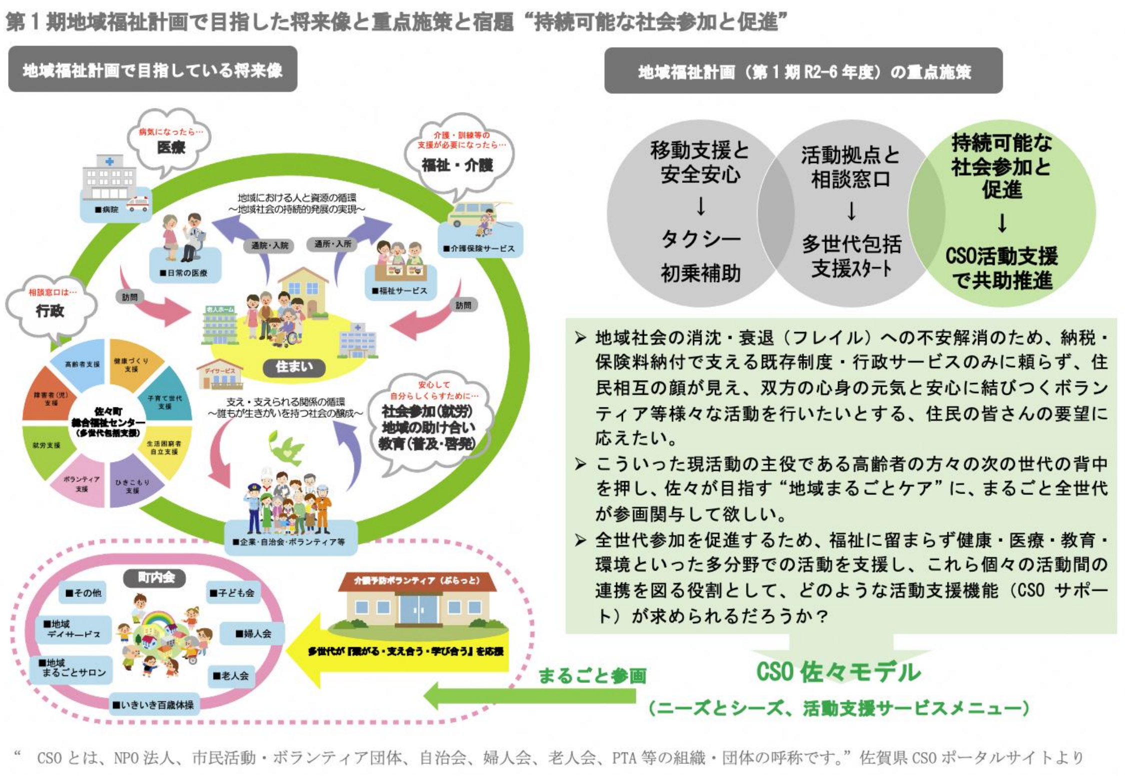
△副会長になりました松尾です。私はスポーツ推進委員として、佐々の子供たちに体を動かすことの楽しさやキャンプ等で関わってきました。△仕事は佐々小学校で特別支援学級の担任をしております。昨年度、佐々の子供たちや佐々で何かできることがないかと思って、こちらの方に地元に戻ってまいりました。今、自分が思っていることを、何か一つでも、この会を通して形になればいいなと思っています。皆さんどうぞよろしくお願いします。

古川副会長

△特別養護老人ホーム虹の里で介護をしております古川です。よろしくお願いいたします。年は 43 歳、大学を除いてずっと佐々町の方に 43 年間住んでいます。とても住

みやすいまちです。△今は子育ても落ち着いてきて、消防団や、いろんなボランティアにも参加させてもらって、楽しく参加できています。△後継者がいないという問題を感じております。△今後皆さんのご意見を聞きながら、いい話し合いができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

中村会長
△議事に入らせていただきます。一つ目の案件は、「第１期地域福祉計画で目指した将来像と重点政策と宿題」についてです。事務局からの説明をお願いします。



山田課長補佐
△令和６年度から令和 11 年度までの６年間の保健福祉総合計画を作成することとしております。これまで地域福祉計画、障害者計画、介護保険事業計画、健康増進計画など、それぞれ分野ごとに計画書を作成して事業に取り組んでまいりました。△この計画というのがこのように、バラバラに、それぞれございました。こちらを、１本にまとめていきたいと思っています。地域の課題や、住民の方の世帯の抱える課題というのが様々で、複合的という実態がございます。そこで福祉高齢障害分野のみならず、健康や食など、保健と福祉分野を横断的に繋げて、町の施策の方向性を定める具体的な計画を作成したいと思っております。△表の一番下に記載しております子供子育て支援事業計画につきましては、５年ごとと定められておりますので、今回の計画

書とは別にはなりますが、今回の計画においても、どの分野においても、子供との関わりというものを切り離すことはできませんので、子供との関わりについても、触れていきたいと思っております。△保健福祉と幅広い分野になりますが、皆様の意見をいただきながら作成していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

幕（MK 総合研究所）
△「第 1 期地域福祉計画で目指した将来像と重点政策と宿題」を説明します。
△現行の地域福祉計画自体も、かなりチャレンジングで、野心的な計画でありまして、子ども子育て計画と同時に策定するという、これまでやられたことのないことを作られました。△今回は更新の計画として、その保険の分野も含めてやるという、また野心的な目標を掲げられている。△保健も含めてやらなければいけないという認識は、4 年前の地域福祉計画の時からやられていました。△それがこの図にありますけれども、端的には多世代包括支援センターの中で、全て丸ごとその保険も福祉も含めて窓口になるところに表れている。この絵は、この計画を毎年、毎年検証してどれだけ進められたのか。どこに課題があるのかを検証される会議で使われていると伺っております。△この中で、保健も福祉も医療も全部繋がっているという認識は 4 年前の計画からもうお持ちになっている。実際その計画としてまとめようというのが今回のこの協議会ということです。
△4 年前の地域福祉計画は3つの大きなテーマを掲げております。1 つは「移動支援と安全安心」、2 つ目が「活動拠点と相談窓口」、3 つ目が「持続可能な社会参加の促進」。この3つを大きな目標を掲げております。
「移動支援と安全安心」というのは「活動拠点と相談窓口」というのは、介護事業者との連携、あるいはボランティアのポイント戦も含めて、事業化が進んでいる。検証も日々されている。△活動拠点と相談窓口の部分も、多世代包括支援がスタートした。端的に、ここは一番目標として事業として多世代が必要だと書いたものが、そのまま実現されている。△残っているのがこの「持続可能な社会参加と促進」のところです。なぜ残っているかというと、よその地域も、うまくいっているところはなかなかない。うまくいかない理由はあげたら、きりがない。△自発的に住民の方に参画してもらう仕掛けは、なかなかつくるのが難しい。行政の事業だけで作るというのは、よその地域でも悩んでおられる。△その企業自治会ボランティア等っていのは、下支えする部分、この地域福祉計画のその行政の計画を下支えする部分として、その住民の方々のパワーを書いてある。ここを点線ではなく、太い線で繋ぎたい。
△ここは 4 年前の計画のところから、もう今一歩、進まないといけない。何か進まない理由を考え直して、現実的な仕組みを考えていかなくてはいけないところだなというふうに思っています。△CSO と書いてあります。CSO というのは、ボランティア団体や NPO ではなく、既存の団体です。自治会、老人会 PTA も全部そういう市民が自発

的に参加されておる団体を全て CSO と呼んでいます。△既存の団体あるいは既存でなくとも、これか自発的にできる住民の活動も全て含めて、ここを保健福祉の計画の中でどう織り込んでいくかというのは、皆様方にお知恵を拝借したいと思います。

中村さん
△次に重点論点に関する協議会委員アンケートについてです、こちらも事務局から説明をお願いいたします。

財津係長
△こちらのアンケートは本庁の多世代包括支援センターの職員が、日々業務を行う中で、それぞれ感じられている疑問や課題を一人一人ヒアリングした中から、委員の皆様とともに話し合っていきたい項目を並べたものです。△多世代包括の職員は、介護分野、介護予防分野での地域力や繋がりに重点を置いた施策展開の経験から、制度の中だけで解決しようとするのではなく、時には民間企業や住民団体の方々の取り組みをサポートする側に行政が回るという方が、より発展した活動になると感じています。△そこで、より具体的な政策を皆様と協議するために、今いらっしゃる 20 名の委員様を 10 名程度の分科会に編成することを予定しております。△一つは、障害や高齢について主に会議を行う場合と、もう一つは、健康や食について協議する会です。当初はもう一つ子供と教育の会も案としてあった。しかし、子供の教育については、障害も高齢、健康、食のいずれについても共通して関わるテーマであることから、両方の分科会で取り扱っていただきたい。
△各分野で福祉に携わっておられる皆様が、特にご意見やご関心をお持ちの項目に、このアンケートの中からチェックを入れていただいて、その結果をもとに、事務局の方で、こちらの分科会に入っていただくか、ふり分けを行いたいと思っております。△大きな二つの分野で分かれますけれども、そのアンケートの表題に課題および施策の柱と表現しております通り、課題の整理を、制度ごとではなくて、方向性や目指す姿とともに行っています。△3つの柱はあくまでもこちらで考えた暫定ですので、これから協議が進んでいく中で変わってくると思います。会議終了後にこのアンケートを回収させていただきたいと思います。

中村会長
△説明をいただきましたので、皆様からご質問などあればと思います。いかがでしょうか。

福田委員

△分科会のお話が出たけれど、これは2つの柱にしようというようなことですね。2つの分科会を開くということですけれど、これは決まった時に、同じ日に分かれてか、それとも別の日にあるのか。

財津係長

△同日お集まりいただくのは難しいと思っています。今日お配りした資料の中に日程調整表と返信用封筒をお配りさせていただいています。2つの分科会に分けて、おそらく別日の開催になると思います。△分科会は別日に開催しますけれど、その後に全体会ということで、それぞれの分科会で話し合った内容を共有できる場をつくりたいと思います。

中村会長

△障害と高齢という部分と健康と食という部分の分科会の形になっていくと思いますので、またよろしくお願いしたいと思います。△今日 CSO という言葉が出てきました。佐賀県の CSO ポータルサイトよりということで、一番下に書いてある。要は「移動支援と安全安心」「活動拠点と相談窓口」の最後の砦として、「持続可能な社会参加と促進」ということで、佐々町でこれをどうやっていくと、うまくいくかが今回の大きな課題になっていくと思います。

△CSO 佐々が図にあるようにプラットさんであり、町内会、子供食堂であり、フリースペースなずなさんであり、ぷくぷくクラブさんであり PTA であり、老人会・婦人会、市民活動、こういった部分があるということで示してある。△今皆さんの団体がすごく活動されているなと感じる。△今からこれをそれぞれ立ち上げることになると大変ですけれど、佐々町はこれがもう立ち上がっている状況。これが社会の部分に、マッチしていくと、両輪となって上手く転がっていくと感じた。

福田委員

△ぷらっとは、包括支援センターさんの方に、いろいろ指導してもらいながらやってきた。8 年目になります。今は独り立ちしました。送迎の方も、順調に送迎バスもやりくりしています。△参加者が、特にここ 1、2年の間に増えだして、今の福祉センターの大広間のスペースは、狭く感じるということもあります。今からまた増えた場合、どうやってこれを解決していくかということで、根本的に、再度、送迎バスのことや今やっている大広間の会場でいいのかなど嬉しいですが、取り組んでいかなければと思っています。

大瀬委員

△子ども食堂には、社会福祉協議会が助成をする団体として関わっています。私はさざなみ町内会ですけれど、そこの住人として、さざなみの町内会でやっているので、た

まにお手伝いに行っているという立場。町が地域サロン事業に、子供食堂を加えていいよということになった。以前は高齢者だけの地域デイサービスと、枠が狭かったけれども、ここ 2 年ぐらい、子供食堂をやっているところも助成に入れていいということで入れていただいております。△コロナの関係でなかなかうまくいってなかった。月に 1 回、ここ4～5 回はうまく運営ができている。ほぼ町内会の子供たち、それから町内会の子供たちの友達というとこで、どちらかといえば口石校区の子供たちが多い。本当小さな子供さんを連れてきているところもありますので大体 30 名前後、毎月 1 回、今動き出したところというところでご紹介しました。

中村会長

△このコロナ禍あってそんなに人が集まる、福田さんの話もですけれど、コロナ禍でみんな落ち込んでいた。△今から少しずつ盛り上がっていくと思う。そんな時にこの会議がまた始まっていくので、楽しみな会議と思います。食べられない子もいることを認識しました。

柳原委員

△フリースペースなずな は 5 月 6 日で 3 年目を迎えます。10 何年前からの念願であったフリースペースを作りたいっていうことで、民生委員の有志として立ち上げさせていただきました。△課題がものすごく多いです。初めは子供小中学生ぐらいを対象にと思っていました。青年は来るし、70 代の高齢者の夫婦は、親の相談っていうのが、多い。「なずな」まで来られなくて、駐車場でも話をした。△「なずな」まで上がってくることができれば違うけども、そこにも来られないというような状態で、去年は中学 3 年生の教室に入れない子供たちがたくさんいますので、中学校の教室の一つを開けていただいたけども、それまでは狭い部屋に一杯だった。△昼から給食を食べて、「なずな」に行きますと、かなり来ていた。男の子も女の子も固まって寄り添うような形で、お喋りしたり、もう気分がいいときにはダンスをしたりしていた。△今その子たちは高校に何とか行って、どうにか今のところ順調です。教育に入れなかった子どもたちが違う生活に馴染んで、今のところ行っている。△親と子供の関係、「親離れ」「子離れ」ができてない。もうそういう関係が多いですから、ちょっと頭が痛いところです。△いろんな相談を受けます。深刻な問題もあります。夜中でも電話があります。1 人でもね、ゆっくりできる場所となるといい。学校でも家庭でもない場所ということで立ち上げましたので、よろしくお願いいたします。

中村委員長

△教育委員として見ると、不登校のお子さんがどんどん増えている状況です。昔では考えられなかった。△僕らの頃、不登校は何人かいましたけれど、本当に今多くなって

きている。学校に行けなかったら困るけれど、「なずな」さんにとどまっていられたらいい。「入ってくれれば」と言われた、何とかとどまって、そして友達同士で集まれるところのスペースはとても大事だと思っています。
それが僕は町の魅力に多分なっていくと思う。

岩本委員
△平成 19 年に立ち上げてもう 1 年目、佐々町地域婦人会と佐々っ子という子育てサークルで立ち上げた。やっとメジャーになってきた。△いつの間にか役場の事業に入ってしまった。でもそのおかげで委託事業として認められた。△佐々町に転入してきた人、里帰り出産なんかの方たちが、多く利用されて、実家に帰ってきたような広場にしたいなと私の願いです。今日も 4 月 5 月の誕生日会をしたけれども、本当に小さな赤ちゃんしかいない。みんな働きに行く働くことが大事だという国の風潮によって、本当に 1 歳未満のお子さんたちばっかり。こちらも一応計画を立てるけれども、もっと計画を考え直さないと思っています。

水田会長
△町内会町内会長をやり始めまして、5 年になる。その中で、その自分の町内会の部分においては、民生委員さんや、包括の方と連携を取って見守りをやれている。その中で、今度は見守りが必要な方が町内会を抜ける。それに対してどういうしていったらいいかと考えています。△町内会に入っている分には見守りもやりやすい。抜けたときに、どういうふうにその関わりを持っていけるかは難しい。△民生委員さんが高齢になって、あとがいない。まだまだ元気で、民生委員さんをできるのに年齢制限があって駄目だと。△厚労省かなんかとも、交渉していただいて年齢を上げてもらうなど、元気な高齢者の民生委員さんもいらっしゃるので、そこもお願いしたい。△子供の見守りも、ボランティアで行ってらっしゃる、これもまた高齢化している。それで止めるにも、止められないというのが、今現時点で起きている。

中村委員長
△町内会でも、まずは町内会をやめてしまう人がいるという部分。民生委員さんのこととか、後継者がいないという部分でしょう。いろんな問題があると思います。今日は無理だと思いますので、こうしたことも話し合いができればと思います。

水田会長
△県のウォーキングアプリ、これを入れていて、毎日最低 5000 歩、自分で目標をたてて実施。最低 5000 歩で申告して、5,000 歩いったらポイントが付く。そのポイントが貯まれば、お店でその分割引ができるというのがある。長崎市内には結構お店がある。

佐世保で2軒ぐらいあった、佐々はゼロです。△商工会の方に実施する企業を増やしていただきたい。そうすると張り切ってウォーキングができると思う。

森山委員

△今後検討していってそれはできるようになると思います。

△先ほど説明事務局説明があったように、保健福祉総合計画は7本か8本の計画を立てられている、それぞれの計画を実現させていくというのは、実現性として、非常に難しい。難しいと思うので、これに横串を刺すのが目的だと思う。確かにその通りだと思います。△そういうことで CSO 佐々ですか。それぞれの団体がそれぞれに素晴らしい活動をされていると思う。でも我々はそれを知らない、その団体以外の人は知らないです。立派な活動をされているのに。何とかそこに横串を通すのが今回の目的というふうに思います。△多様な団体の人たちが意見を言って、そこで連携した形で、事業を進めていく形にした方がいいということですね。例えば一つの団体が何かやっていて、他の人が入っていくと、場違いなところに来た感じがする。自分の居場所でないと思うことが、よくあると思う。そこは、どこに行っても知り合いがいて、自然に入れていく団体と言いますかね、仲間作りをやりながら横串を通しながら、この総合計画の全体の実現に向けていく計画が必要じゃないかと思う。これから先、このための組織が多様な団体で、それを効率的に運営して、実現させていくために展開していける組織を作っていかなくてはいけないと考えたところです。

△商工会もいろんな形で話しをしている。商工業者のための商工会という枠から離れてですね、地域振興やまちづくりのためになる商工会活動を今後やっていこうと話をしています。△商工事業者が儲かるためのことだけじゃないことも商工会活動を今後やっていきます。先ほど言われたことも含めて、多様なことをやっていきたいと思います。

吉居委員

△今お話を伺って、佐々町の場合は突出してと思うが、町民の方の活動が非常に活発で継続的で、発展してきている。しかもそれを自分たちでさらに発展させていくところで、課題まで自分たちで提示してこられて、地域福祉計画は、以前のところはそれを組み込む形で、既存の制度の上でどうしていいかという枠組みでしか書いてなかった。多分、今回はこういう形で、総合的にするという目標が見えてきていると感じました。

△事務局の方に少し厳しい言い方をさせてもらいたい。これを取りまとめてこのまま進めていとなったときに、組織なり、行政組織内部はどうするかという検討も、この中で意見として述べられるのでしょうか。目標とされるのは、私もこの姿だと思う。要するに、共生社会と題がついている会で、それを実現するという形で動いている。△これまで地域福祉計画など、いろいろ参画させていただきましたけれども、行政組織内部のそれに対する対応の形が求められていると思います。必ず行きそこに着くと思います。ここ

まで佐々町がうまくいっているのは、この活動がうまくいってきたからです。これを止めないようにするための仕組みが必要になってきて、多分この概念の大きなテーマになっている。それをどこかで入れていただけないと、すごく心配。
△本当はそこのところを、仮の姿として、行政の方はこう思っていると示していただけたらいい。もっと活発な議論ができると思う。△ここに示されたのは、全国で行われているところの最先端の姿です。個別にもされてきているわけです。例えば、子育てのことはでませんでしたけれども、センターの方の松尾さんが自分たちで考えて、専門家の方を入れて、大きな会議を開いてというのは、やりたくてもどこの地域もできてないです。△市民の方が活動されているときに、その領域の専門家も一緒に入ってくる仕組みが、同時に必要になるレベルにここは来ている。△決まった形がないので、行政組織という視点も、今の国の制度上はないと思います。ここで作っていくしかない。その時に、先ほど言ったような問題が発生していくと思うので、一緒に考えていけたらなと思います。△一つのモデルは江田さんとこでされてきた、包括でされてきた形で、市民の町内会を支える形で動いて、町内会が活性化した。他のところは町内会を活性化しようとするわけです。しても無理だと思う。町内会が全国で機能している場所はほとんどなくなっていっている。これは衰退する方にしかないと思う。今の形で維持できたら、できている佐々町がすごいわけです。
△ここに昔のようなやり方で手を入れるのか、それとも多様な参加者が同じところを同時に組み込みながら、新しい将来像に移行していくのだと思う。△多分そうなると思いますが、それをどうやったらいいかを具体的にぜひこの会で、皆さんで議論していただけたらいいなと思います。

中村
△ベクトルは多分一緒で「暮らし一番住むなら佐々」でしょうから、そこに向かっていくように、私もできるだけ頑張って進めていきたいと思います。
△事務局にお返しします。

事務局
△二つの分科会を 6 月中に開催できればと思っております。また日程とあとどちらの分科会に入っていただくかっていうのは文書でお伝えいたします。
大体今年度の中で全体会を 3 回から 4 回考えておりまして、その間に、より深い議論するために分科会を 2 回を挟んでいくという予定にしております
それでは本日ご協力いただきありがとうございました。